

地域医療の向上につながる多職種の人材育成と患者教育 ～心不全患者に求められる 「支える医療」の構築に向けて～

志賀 悠平 氏

福岡大学病院 循環器内科 講師



背景

近年、循環器病領域で注目されているのは、心不全の5年生存率が50%と予後が決して良くないことである。さらに、心不全入院数および心不全入院中の死亡率は、年々増加の一途をたどっており、超高齢社会の到来を考えると、心不全は克服すべき重要な疾患となるものと考えられている。

心不全は、入退院を繰り返す病態であり、心不全に対する緩和医療の導入においても看取りの時期まで静脈持続注射などの医療行為が必要となる場合がある。心不全の治療目標は延命から、患者の生活の質維持・向上や患者の意向(意思決定)や生活背景を考慮した「支える医療」へと変化しており、多職種(医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、介護士等)チームによるアプローチが重要となっている。これを急性期の入院中から開始し、回復期～維持期にかけて継続することが重要であり、地域の医療資源を効率的に用いて、多職種が連携できる体制を検討する必要がある。このように、かかりつけ医と専門的医療を行う施設との連携体制には、心血管疾患に関する知識を習得する機会の確保、かかりつけ医等の専門医以外が日常診療にて活用できる心血管疾患管理ガイドラインや診療マニュアルの策定、心不全手帳等による患者情報共有手法の検討及び普及、適切な心血管疾患地域連携パスの検討及び普及等も重要である。また、慢性心不全対策を推進するにあたり、幅広い心不全の概念を、患者やその家族で共有することが重要である。

目的と方法

そこで我々は当科で作成した心不全連携シートや心不全説明書を使用し、患者の病態、今後起こりうる事象から人生の最終段階における医療とケアの方針まで決定し共有すること、連携医療機関や施設、自宅での管理において実際に医療現場で看護・介護を含む問題が生じた際にはwebなどを使用し、多職種で情報共有し解決策を検討・共有するといったことを実践する。また、心不全患者会を設立し、医療講演会や相談会を開き患者教育を行い、その内容を機関誌などで報告する。また、患者会での集まりにより、患者・家族間の情報交換や経験の交流を行う。

期待される成果・意義

この試みにより、今後起こりうる事象や最も患者と密接に関わる医療現場で抱えておられた問題を拾い上げ解決策を共有することができ、心不全患者会の設立においては、現在おかれている心不全の状態を科学的にとらえること、心不全と向き合う機会をもつこと、心不全を管理していく条件をつくりだすことが可能となり、患者・家族の病識を向上させることにより今後の地域医療体制のモデル戦略を構築することができると考えている。